



ちん

(ミナミクロダイ)

～生活史についての研究～

①釣りに人気の“ちん”

沖縄で“ちん”と呼ばれるタイ科クロダイ属の魚類には、3種が含まれています。最もポピュラーな種が、ミナミクロダイで、1962年に新種記載されました。西表島から奄美大島にかけて分布する琉球列島の固有種です。大きなものでは50 cm 以上になります。一般的に釣り人に釣られているのはこの種です。

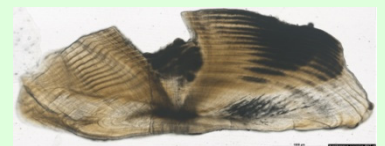


ミナミクロダイ (ちん)

② 何歳まで生きるのだろう？

釣り人たちの間では、大きな“ちん”を“歳なし”と呼ぶことがあります。これは、大きくて何年生きているのかわからないという意味です。

ちんの耳石

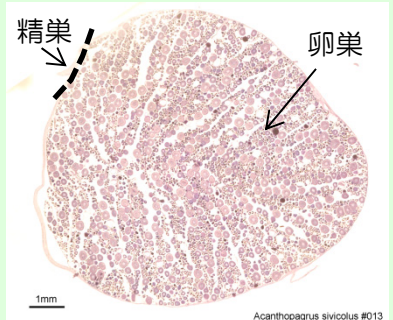


(輪紋を数えることで年齢を調べます)

実際に沖縄のミナミクロダイは、何歳まで生きているのでしょうか？300個体以上のミナミクロダイを調べた結果、最高齢は雌13歳、雄10歳でした。実際にはもっと大きなミナミクロダイが釣られていますので、最長寿命はもう少し高齢になると思います。

③性が変わるんです！

サンゴ礁に生息する魚は、一生のうちに性を変化させること（性転換）が知られています。特に、みーばい（ハタ類）やいらぶちやー（ブダイ類）は、メスからオスへ性転換することで有名ですが、ちんでは、オスからメスへと性を変えます。しかし、生涯オスのままでいる個体も確認されており、群れ内での社会性が関係していると考えられています。



卵巣と退縮した精巣

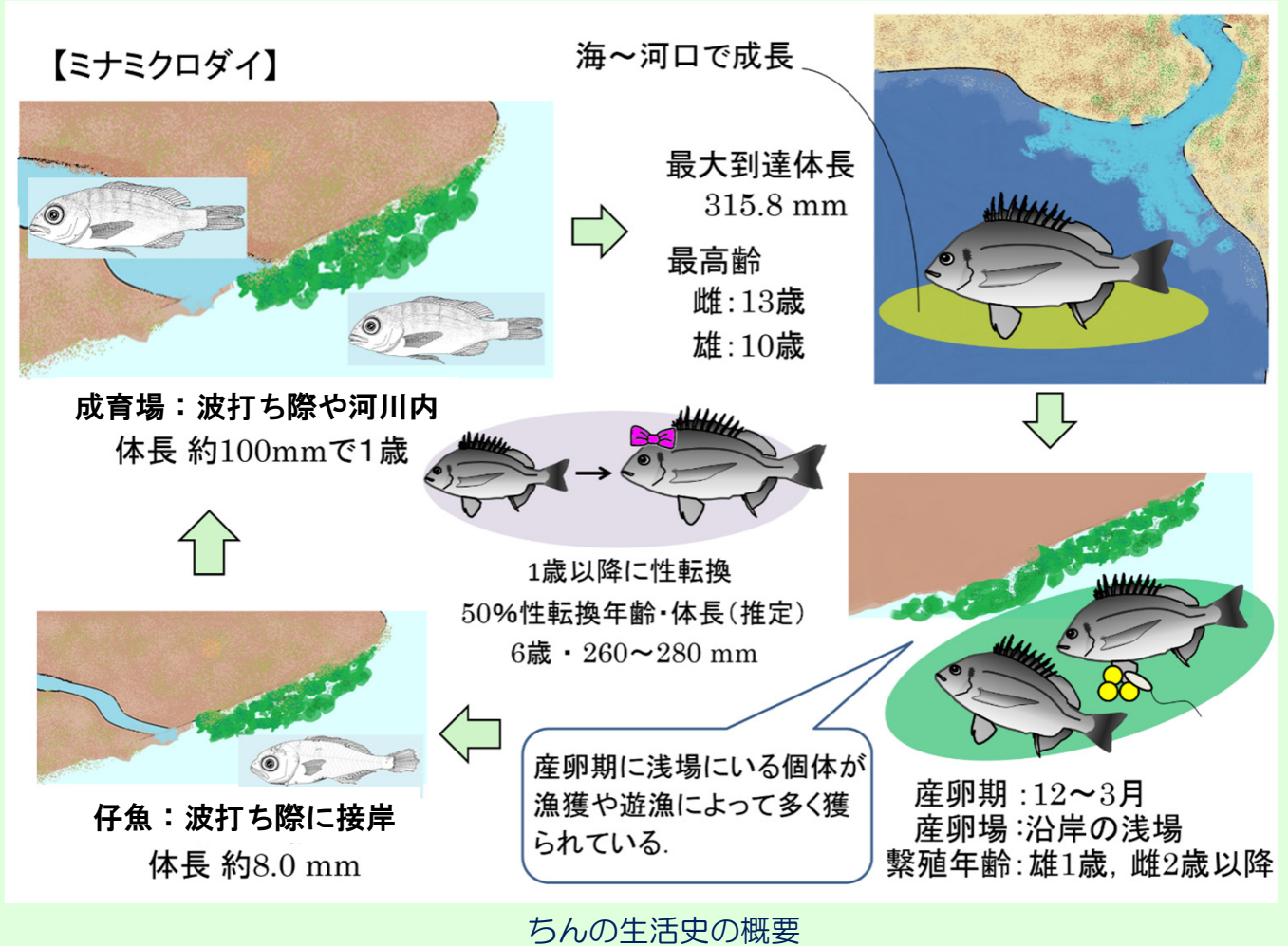
クロダイ属魚類は、温帯由来の魚です。そのため、亜熱帯の沖縄では水温が低い冬に産卵します。沖縄島での産卵期は、12月から翌年の3月頃です。どうやら“ちん”は、この時期に干潟に生息する小さな巻貝類（オニツノガイ科）等を食べて産卵のための栄養を蓄えているようです。また、この時期には多くのちんが、緑藻の繁茂する岸近くに集まり、絶好の釣りのシーズンを迎えます。



干潟に繁茂した緑藻と巻貝（矢印）

④ “ちん” の生活史（一生）

ミナミクロダイの仔稚魚は、体長7～8 mmで砂浜海岸の波打ち際に出現し、そこで成長していきます。河川のない砂浜海岸では、短期間で移動してしましますが、河川が流れ込む場所では、1年後、体長100 mm になるまでその場で成長を続けることもあります。生まれた子供たちは、雄1歳、雌2歳で成熟し、産卵に参加します。



⑤ “ちん” を守るためにできること

これまでみてきたように、仔稚魚の生息場所である波打ち際や産卵をする浅場は、人の手による開発が進みやすい場所です。埋め立てにより波打ち際など浅場が消失すると、“ちん” の子供たちの“ゆりかご”や“産卵場”が無くなってしまいます。また、産卵期に浅場に集まるため、漁業者や釣り人にたくさん獲られてしまうと、せっかくの産卵の機会も失われ、次世代を残せなくなります。

沖縄の“ちん”を末永く利用し続けるためには、節度をもった漁獲や釣りを心がけることや浅場の環境を守ることが極めて重要です！！

⑥ 参考資料・文献

・平成27年度沖縄沿岸域の総合的な利活用推進事業に関する委託「水産重要魚類の生活史と遺伝的集団構造の解明」研究成果報告書

・赤崎正人(1962) タイ型魚類の研究. 形態・系統・分類および生態. 京都大学みさき臨海研究所特別報告, 1, p. 1-368.

執筆担当者：塩野一步・立原一憲（琉球大学）・上原匡人（沖縄県水産海洋技術センター）